

2006年（平成18）11月

カルメル  
**霊性センターニュース**



佐々木松次郎 画

**215号**

カルメル会 中川 博道

カルメル修道会は、この一年、三位一体のエリザベトを思い巡らしてきました。エリザベトの靈性の基盤は修道院に入る前にほぼ確立していたといえます。家族や友人たちとの生活を大切に、旅行や自然界を満喫し、社交界にあつてはピアニストとして優雅で愛らしい花形としてありながら、彼女は自分の中に潜む神秘を生きていました。

「私たちの心の奥深く、心の聖所に神さまが住まわれるのは、なんとすばらしいのでしょうか。たとえ、感覚ではとらえることが出来なくても。私は心の深みに神さまを探しに行くのが大好きです。最愛のお方よ、私は心の奥深くにあなたがおられるのを感じます。あなたをほとんど考えることのない人々の集いの中で、…」

「魂の奥底までも見通される神のまなざしのもとで、神と共にとどまるなら、世間の真ただ中にも、神のものでありたいと望む心の深い沈黙の中で、み身に耳を傾けることができます。」

「信徒の時代」といわれ始めた現代、あらためて信徒の靈性の本質が問われています。エリザベトは成熟したひとりの女性として、社会の真ただ中で、三位一体の神との交わりを生き抜きました。特殊な環境、特別な信心、特別な活動、特別な人間関係なしに、自分が与えられた場において、与えられた才能と能力を開花させながら、また、自分の欠点・弱さと葛藤しながらも、彼女は「神は私のうちに 私は神のうちに」という人間存在の最も深い現実を生きていました。

そして、この現実を世間にあつて生きることが可能であることを、342通にもおよぶ手紙によって、信徒である母や妹を始めあらゆる境遇にある友人たちに書き送っています。たとえどのような弱さや惨めさを抱えている人々にたいしても、彼女はそれを繰り返して励まし続けました。

「聖三位はいつもいつも、お母さまの靈魂の内にすんでおられます。…」

「ですから、私たちが靈魂の最も深いところにいるときには、神さまのうちにいるのです。…何をしながらでも、靈魂の内奥のこの孤独に退くことができます。…」

「私たちは弱く、惨めさそのものであると言えます。でも、神さまは私たちをゆるし、抱き起こし、ご自分のうちにその無限の聖性のうちに私たちを伴われるのが本当にお好きなのです。」

エリザベトのメッセージの中に、「信徒の靈性」の最も単純な基盤をみることができるように思えます。

帰天100年祭を機に、ひとりでも多くの方が、三位一体のエリザベトのメッセージに触れ、人間存在の深みに潜む神秘に開かれて喜びに満たされますように、彼女の取次ぎを願いたいと思います。

心の泉



泉の心



## 三位一体のエリザベット帰天百周年にあたって（12）11月



わたしは

光へ、

愛へ、

いのちへ まいります

エリザベット 最後の写真

十一月八日から九日にかけて非常に苦しんだエリザベットは、この言葉を残して二十六歳の短い一生を終えました。

永遠の光のもとで人はすべてを真理に基づいて見ます。神のために、神とともになされなかったすべてのことはなんとむなしいのでしょうか。すべてに愛のしるしを刻んでください。愛以外残るものはありません。人生とは厳粛なものです。

エリザベットが「永遠の光のもとで見ていた真理」を私たちもこの帰天百周年にあたり心の深みに刻み込みたいものです。

神のうちにより深く根ざし、キリストにますます似たものとなり、神との一致がより深くなるためにこそ、一瞬一瞬が私たちに与えられています。

移り変わりの激しい現代社会に生きる時、とかくその渦の中に巻き込まれてしまいがちです。「神との一致がより深くなるためにこそ、一瞬一瞬が与えられている」ことを思い出させてくださるようエリザベットに願いましょう。帰天百周年後も、エリザベットは自分の使命を、さらに強力に果たしてくれることでしょう。

天国での私の使命は、人々を自分自身から解放させ、素直な愛にみちた心で、神に身をまかせるようにさそいかけ、助けることです。神はご自分に身をゆだねたものの心の奥底にご自身を刻み込み、ご自分の似姿へと変えようとなさいます。それで、そのために必要な沈黙を自分のうちに深めて、そこに人々がとどまるように助けたいと思います。

伊徒 信子

ノートル・ダム・ド・ヴィ

断想（207） 若き日のノートより

奥村一郎

生活から 生み出される 信仰ではなく  
生活を 生み出す 信仰が必要なのだ  
前者は 長いカトリックの伝統の国のことだ  
後者は これからの日本の教会のことだ

神秘の感覚は 大切だ  
しかし 神秘趣味に陥る危険がある  
理性にたけた人間には 神秘はなくなる  
理屈が多くなる危険が そこに生ずる  
愛が理屈になるからだ

ああすべき こうすべき と 論じあうよりも  
今 主は この場合 何を望んでおられるか を  
探すべきでは ないか

スペインの修道女の家を 告解日の変更の連絡をしたあと  
街の通りに出たら 朝の陽に濡れた空気が頬をひんやりと  
つつみ 太陽が眩しく輝いていた

ここにも 太陽がある……

新しいものでも見出したように 北仏の街を今歩いている  
自分を ふりかえってみるのだった

1969. 1. 27

# ヘンリ・ナーウェンの 『旅路の糧』

(93)



## 祝福を選ぶこと

私たちが呪いのもとに生きていると考えることは、絶えざる誘惑です。友人の喪失、病気、事故、天災、戦争、何らかの失敗等々は、すぐ私たちがよくないので罰せられているのだという考えに導きます。私たちの人生が呪いに満ちていると考えてしまうこの誘惑は、あらゆるメディアが来る日も来る日も、人間の悲惨さについてのニュースを流す時、いっそう大きくなります。

イエスは私たちに祝福するために来られました。私たちに呪うためではありません。けれどもその祝福を受け取り、それを他者に伝えてゆくことを選ばなくてはなりません。祝福と呪いは、常に私たちの目の前に置かれています。選ぶのは、私たちの自由です。神はおっしゃっています。「祝福を選びなさい」と。

(0908)

## 命を選ぶこと

神は言われた。「わたしは、生と死、祝福と呪いをあなたの前に置く。あなたは命を選び、あなたもあなたの子孫も命を得るように」(申命記 30 : 19)。

「命を選ぶということ」。それは、私たちに対する神の招きです。このような選択をしなくてもいいような時はどこにもありません。生と死は、絶えず私たちの目の前にあります。私たちの想像や考えや言葉やしぐさや行動の中に… また行動しない時にも。命を選ぶことは、心の内部の深い所で起きています。まさに命を肯定する行動を取りながら、私は心の底でなお死の思いや死の感情をいだくことができるのです。もっとも重要な問いは、「私は殺そうとしているのか」ではなく、「私は心の中に祝福を運んでいるのか、それとも呪いを運んでいるのか」ということでしょう。人を殺す弾丸は、ピストルを手にする前に自分の心の中に生じた憎しみの最終的な道具でしかないのです。

(0830)

## 『必要なことは、ただ一つだけ』(18)

ルドルフ・V・デ・スーザ OCD (カルメル会)

私たちの思考は、実際は、心で行なっているのです。心がまず判断をくだし、それからそれを守るため、理由づけを行なうよう頭に命令するのです。ここに神の啓示の別の源泉があります。あなたが到達した判断のいくつかをよく調べてください。それらがいかに自分の関心によって汚染されているかを見てください。施しを願って一人の乞食があなたに近づく時、あなたの中にはすでに自分の考えがあるのです。あなたは決して乞食のほんとうの感情の中には入りません。あなたの反応は、あなたのものではないのです。それは、自分が育まれた文化や社会の中で作られてきた反応なのです。このことは、どんな判断についても、あなたがそれらを暫定的なものに見なさない限り、真実なのです。たとえば、あなたが或る人に対する判断をどんなにしっかりと握りしめ、離さないかを考えてください。それらの判断は、ほんとうにあなたの感情から自由になっていますか。そしてもしあなたがそう考えるなら、おそらくあなたはまだ十分に厳しく自分自身を見ていないのです。

### なぜあなたは十全に生きることができないのか

悲しいことに私たちはみな、他者によって生きるように求められている生活を送っています。私たちは成功という考えに取りつかれています。ヒーローたちの成功を思いめぐらし、悲しくなるまでに彼らを賞賛します。けれども私たちの周りにいる成功していない人々についてはどうでしょうか。なぜ私たちは、幸せだと思われているだれかのような必要があるのでしょうか。それが、まさに私たちが自分自身であることを妨げている心の籠（たが）なのです。

十全に生きるとは、あなたの富、時間、才能、知性等を役立たせることです。



あなたは十全に生きるために、だれか他の人を雇う必要はないのです。あなたの生活をよりよく、あるいは幸せにするために、だれか他の人を見つめる必要はないのです。あなたは、幸せになるためのすべての富を自分自身の中に持っているのです。動物は他の動物のことは考えません。野の百合は、生き生きと幸せであるために、そばに咲くバラや雛菊(ひなぎく)を必要としないのです。それらは、それらがあるがままで幸せであり、満たされているのです。

自然から教えを学ぶ必要があります。私はいつもそうするよう努めています。私たちは自然を見る時、競争や比較や批判や渴望や物まねといった狂気から離れ去ります。私たちは生き生きとしだします。なぜ私たちは十全に生きることができないのでしょうか。なぜか申し上げます。それは、私たちが自分の心の奴隷となってしまったからです。私たちの心は、私たちの外に私たちを幸せにしてくれる何かを探すよう私たちをけしかけるからです。あなたは、次のことを思い出すべきでしょう。自分が見、求め、渴望するすべてのものを、あなたは手に入れることができないということを。幸せと平和は、自ずと自然に生じてくるものです。

十全に生き生きとした者になるということは、キリストのようになることです。彼は、その生を限界なしに生きました。復活は命のきわみであって、平和のクライマックスに起こったのです。主は、エマオへ向かう弟子たちに言われました。「ああ、物分りが悪い者たちよ。人の子はこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか」。十全に生き生きとした者となるためには、私たちはまず自分自身に死ななくてはならないのです。一粒の種は地に落ちて死ななければ、そのまま残ります。死は命へと導くのです。私たちの命の経験のすべては、死への道であり、それによって私たちはほんとうにキリストの内に生きることができるようになるのです。聖パウロが、人生の終わりに次のように言いました。「生きているのは、もはや私ではありません。キリストが私の内に生きておられるのです」。

(続)

年間第31主日

『心を尽くし、…神を愛し、隣人を自分のように愛する』ということは、  
どんな焼き尽くす献げ物やいけにえよりも優れています」  
(マルコ 12 : 28b-34)

私たちは何としばしば説教の中で「愛」について聞かされることでしょうか。何と刺激的にラジオやテレビは、これを取り上げてきたことでしょうか。また何と頻りに宣伝広告や劇や映画は、これを利用してきたことでしょうか。けれども愛の問題は、今日の福音になお登場してきます。愛は天国であり、天国は愛なのです。それゆえイエスは、私たちが心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして神を愛するよう求めているのです。

けれども私たちは空っぽの状態で神を愛することはできません。だから愛の掟は、他者を「自分のように」愛することによって、神を愛しているのだと言っているのです。そうでなければ、私たちの愛は「きわめてホーリーな」、あまりにも霊的なものとなってしまおうでしょう。これに対し、私たちは聖書的に聖なる者であるべきでしょう。それは、隣人愛をも含む大きな愛と向かい合うことを意味しているのです。ここから私はしばしば、神への私の愛が、人間の形を取ったらどのように見えるのだろうかと思像します。それは他者を助ける手を持ち、必要な人々の所へ急ぐ足を持ち、貧しい人々の悲惨さを見る目を持ち、悲しむ人の溜め息を聴く耳を持っていると思います。ロンドンの墓地で二つの葬儀がありました。最初の小さな棺には、会葬者は一人だけでした。しかしもう一つの棺は花輪と百合の大きな花束で飾られ、何人かの会葬者がつき従っていました。墓のかたわらで、父親は花輪と百合の大きな花束を自分の子供の棺から取り、もう一つの棺の上に置きました。何と美しい光景でしょう。死んだ後に愛することがこんなにも美しいのなら、生きている時に愛することは、どんなにかもっと美しいことでしょう。

けれども、上の二重の愛の最高の模範は、イエスの中にしか見出されえないのです。キリストの模範に鼓舞されて、私たちも最終ゴールである完全な愛の二重の掟に向かって一步一步、歩いていくように呼ばれているのです。その愛が、いかに難しく危険なものであろうと、他のすべてのものにまさる唯一の価値なのです。

(Sr. Paulina)

## 年間第 32 主日

「あの貧しいやもめは誰よりも多く投げ入れた」(マルコ 12 章 43 節)

ある夏の日のことだった。私は実家に帰省していた。母が西瓜を買うからついて来て欲しいと言った。母は既にその頃から西瓜のような重いものが持てなくなっていたのである。近所のスーパーに行き、西瓜とその他もろもろのものをかごに入れ、レジに行くと数千円になった。私が払おうとすると、そのとき母は財布を持った私の手を押さえ、「信者さんの血の出るようなお金をこんなことに使ってはいけない」と厳しく言った。

「血の出るようなお金」という表現は私をたじろがせるのに十分な迫力があつた。こういう言葉を使うからには、母は血の出るような献金を続けてきたに違いない。私は、血の出るような、つまり身を切られるような痛い思いをして献金したことがあつただろうか。自分を甘やかさず、厳しく見れば一度もなかったと言うしかない。

母は天理教の信者である。それも 4 代前からの信者という念の入つたものである。天理教はおささげが多額であることで知られている。「悪しきをはらうて助けたまえ天理王のみこと」という祈りの言葉をもじって「屋敷をはらうて(売り払って)助けたまえ天理王のみこと」と言われるほどである。天理教のために家屋敷を捧げた人は実にたくさんいるに違いない。私の御先祖様もその中に入っている。私の母が生まれた頃、家は貧しかったそうである。念のために言うと、これは天理教のせいではなかつた。種々の事情のためであつた。祖父は天理教の教会で育つたにもかかわらず、天理教が嫌いになり、家族が教会に行くのを嫌がっていたので、祖母と母たちはこっそりと教会に行っていた。キリスト教と違い、行く曜日が決まっているわけではないので、行きやすかつたようである。母は、よく天理教の教会に祖母の代わりに献金を持って行かされたそうだ。おかずを始末して浮いたわずかのお金を捧げるのである。もらい物があるとまず教会に届ける。本当に、血の出るようなお金を捧げていたのだらう。母は、祖母の献金の仕方をよく学んだに違いない。

祖母のしたおささげのなかで、最大のもは空襲の直後に行なつたことであらう。空襲で市の大部分が焼かれた夜、幸いなことに母の家は三軒先で風の向きが変わり、焼け残つた。翌日、焼け出された人々は、泊めてくれる家を求め、焼け残つた親戚、友人、知人の家を訪ねまわつた。祖母は訪ねて来る人を一人も拒まず、狭い家に何十人も泊まることになつた(なお祖父は中風で寝たきりだつた)。この状態がしばらく続き、よくまああれだけの人数が寝られたものだと言ふ。戦後 60 年以上経つた今も、「あの日どこに行つても断られたけれど、あなたの家だけは泊めてくれた」と、母に感謝してくれる人がいる。

祖母は亡くなる間際、「お前に何も残してやれないけれど、私の功德を残してあげる。これで一生やっつけていけるはずですよ。」と母に言つたそうである。私の生まれる前のことであるが、祖母の功德が母だけでなく、孫の私にも及んでいるように感じる今日この頃である。(とます)

年間第33主日

「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」

(マルコ 13 : 24-33)

聖書の中には偉大な人物が、自分の死が近いと知ると、子供や弟子を集め、遺言を与える物語がふんだんにあります。ヤコブは死ぬ前に十二人の息子を呼び、一人ひとりにふさわしい祝福を与えました。死につつあったモーセは、その時、人々に強くあれ、雄々しくあれと励まし、12部族を率いる後継者を任命しました。ダビデ王は生涯を終える前にイスラエルの高官を集め、息子ソロモンに権威を譲り渡しました。同様にイエスも、死ぬ前に弟子たちを集め、未来の時について最後の教えを説き、政治的宇宙的大変動のただ中でいかに生きるべきかを教えられました。

現在、未来についてのヴィジョンは、それほど私たちの心に訴えてこないように思われます。イエスは恐怖と混乱と迫害の時を思い描いています。この災害の一覧表の後に、よい知らせがあります。イエスは苦難の時を越えて、人の子が散らされた神の民を自分のもとに集める最後の時に目を向けています。彼は、苦しみや迫害の及ばない、神と共にいる平和な未来を見つめているのです。

ところで私たちは、イエスの約束に信頼しなくてはなりません。「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」。私たちがしっかりと保持すべき唯一確かなものは、イエスの言葉だからです。

私たちは、今、不安定な時代に生きています。未来は決してまったく安全であるとは思われません。各時代にあって、イエスの言葉は、私たちの最悪の想像を越える、私たちの心を捉えて離さないヴィジョンを提供しています。そこには武器や弾薬の山を超越した場があります。このヴィジョンは、平和のために努力する義務から私たちを解放するものではありません。けれどもそれは、核による大量殺戮が人類の物語における最後のページとなるという考えから、私たちを解放してくれるのです。唯一の究極的な言葉があります。それはイエスです。その言葉だけで、私たちは十分であるはずで

(Sr. Paulina)

## 王であるキリスト

(ヨハネ 18 : 33 ~ 37)

今日の福音の中でイエスは王と呼ばれている。これが人々のイエスを訴える口実になっている。当時ユダヤはローマの属領になっていたため、王と名乗ることだけで独立を主張し、ローマに反旗を翻すことだとされたのである。ピラトは王の威厳もないイエスが王と呼ばれることをいぶかり、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋ねる。

この夏「ジーザス・クライスト・スーパースター」のオリジナル版を再び見る機会があった。このロックオペラが映画化されたのは 33 年前であるが、私は日本公開の初日に見たし、ロンドンで舞台も見た。一時期は歌詞をすべて暗記していたくらい入れ込んだ映画であり、この映画を見てから色々なことがあり、教会に通い始めた。現在はリメイク版しか DVD になっていないらしいので、もうオリジナル版を見られないとあきらめていたのである。本当に初恋の人に再会したような気分であった。実は私は、このオリジナル版のキリストが好きなのである。キリスト映画はずいぶん見たが、どのキリストもぱっとしない。一昨年見た「パッション」のキリストは皮膚がたるんでいて興ざめだった。キリストを演じる俳優はきりりと引き締まった肉体をしていて欲しい。一番好きなのは「ベン・ハー」に出るキリストで、これは顔を映していないのがいい。顔の出るものでは、「ジーザス・クライスト・スーパースター」が一番好きなのである。マックス・フォン・シドーが演じた「偉大な生涯の物語」のキリストが一番だと言う人もいるが、マックス・フォン・シドーは立派過ぎるのが難である（なお彼は「エクソシスト」で悪魔祓いをする老神父も演じた）。公生活で、順調に教えを広めているときは、立派な堂々たるキリストを演じられる俳優がふさわしい。しかし、受難の場面では無力な弱々しいキリストが私の心を打つ。無力で弱いキリストの姿は決して、能ある鷹は爪を隠すといった仮の姿ではない。ユダヤの宗教権力、ローマの支配者という地上の強大な力の前で何もできない人間イエス、それは本当の姿であり、イエスの人間としての限界なのである。これが私には、「ジーザス・クライスト・スーパースター」のキリストに重なる。この俳優は背も高くなく、きゃしゃであり、ピラトの前でのおどおどした態度を好演している。

この弱い無力な人が私たちの王なのである。イエスはピラトに対し、「私の国はこの世に属していない」と答える。そして「私は真理について証しするためにこの世に来た」と言う。神の国は、この世に属さないがこの世よりも強く、真理は敗れることがないのである。真理とは、イエスにおいて現実となっている神の現実であり、愛である。愛は人間のいかなる邪悪な力にも敗北しない。負けたように見えたとしても必ず復活し、圧倒的な力で勝利する。この神の現実が、既にピラトに裁かれるイエスに現われている。私たちはそのキリストを王としていただくのである。

(とます)

## …ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

### 12. ご復活のラウレンシオ修士 (1611-1691)

ラウレンシオ修士は、フランス、ロレーヌ地方の生まれで、ニコラス・エルマンという名前であった。学問的な人ではなく、下男として、また兵士として働いた後、修道士として1666年に跣足カルメル会に入会した。ラウレンシオ修士の祈りは、絶え間なく単純なものであった。なべ類に囲まれて働いている最中にも、聖堂にいるときと同じように易しく、神との交わりを見出した。「それがどのような結果になろうと、私に残された日々があと何日であろうと、私はすべてのことを神の愛のために行うでしょう。」このような考えが、彼にとって慰めであった。こうして、自己を忘れることにおいて、彼は真実に神を見出したのである。1691年、パリにて死去。

#### — 祈り —

おお私の神よ、私は信じます。私の心のうちにあなたが本当に現存しておられることを、そして、私とすべての被造物において、過ぎ去り、また過ぎ去りゆくであろうすべてのものを見ておられるということ。あなたが私と共にいてくださるのですから、何を恐れることができましょうか。お望みのままに、私になさってください。私はあなたご自身以外には、そして、まったくあなたのものであること以外には、何も望まないのですから。

おお私の神よ、あなたは私とともにおられ、今あなたのご命令に対する従順のうちに、私はこれらの外的な事柄に心を合わせなければならないのですから、どうかあなたのご現存のうちに続ける恵みをお与えくださるよう、お願いいたします。そして、この目的のため、あなたの御ささえをもって私を豊かにし、私のすべての業を受け入れ、私の愛のすべてを所有してください。

私の神よ、私は自分の弱さのうちに、あなたを礼拝します。今、今こそ、私はあなたのために担うべきものを持つのです——それは良いこと、そうであるならば、私はあなたとともに苦しみ、死にますように（その後、彼は詩編51の次の節を繰り返したものであった：「神よ、私のうちに清い心を創造してください。御前（あなたのご現存）から私を退けず、御救いの喜びを再び私に味わわせてください」）。

私の神よ、あなたの宝は、果てしない大海のようです。それなのに、時とともに去りゆく感情の小さな波が、私たちを満足させます。このように盲目であるがゆえに、私たちは、あなたを妨げ、あなたの恵みの奔流を止めてしまうのです。けれども、靈魂が生きた信仰に貫かれているのをご覧になると、あなたはその靈魂にあり余るほどの恵みを注ぎ込まれます。その恵みは奔流のように靈魂に流れ込み、通常の流れを強引に押しとどめられた後に、道筋を見出して、押し込められていた大水を、猛烈な激しさで、解き放ち広げていきます。

おお主よ、単純な注意と最も深い愛のこもったまなざしを向けながら、靈魂はあなたと沈黙のうちにひそやかに会話を交わしつつ、あなたの聖なるご現存のうちにとどまり、いつもそこに堅忍することを、私のただひとつの務めとすることができますように……。おお主よ、私の心のうちに現存される御父として、あなたを観ております。そしてそこで、あなたを礼拝します。あなたの聖なるご現存のうちに私の心をとどまらせ、散心して心がさまよっていることに気づくときには、いつも心を呼び戻しながら……。

おお主よ、あなたの愛を感じることは、ほとんど私を圧倒してしまいます。思し召しならば、あなたを知らない人々に、あなたの愛に満ちた優しさのこのような多くのしるしをお与えください。それはあなたのご奉仕に彼らを引き寄せるためです。私には、あなたの知識のうちに信仰がもたらす富を持つだけで十分ですから。けれども、私は、あなたの惜しみない御手のご好意を拒んではならないのですから、主よ、私の賛美をお受け入れください。そして、あなたがとお与えくださったこれらの賜物を、再びお受け取り下さるよう、お願いいたします。おお主よ、あなたの愛のために場所があるように、私の心の部屋を広げてください。あなたの愛の火が私を焼き尽くしてしまわないよう、あなたの御力によって私をお支えください。

主よ、私が求めるのはあなたの賜物ではなく、あなたご自身であることを、あなたにご存じです。私の心は、あなたを見出すまでは安らぎを見出さないことでしょう。

おお、これほど古く、同時にこれほど新しい、愛に満ちた優しさよ、私はあなたをお愛しするのが、遅すぎました。

\* \* \* \* \*

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる( I 列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(浜田裕子訳・編)

## 挨拶

私は仕事の関係上、1週に1、2回は朝の一番バスに乗っています。6時25分に来るので、これに乗る人といえば少数のご常連。どの停留所からどの人が乗ってきて、どこで下車し電車に乗り換えるくらいのことは、無言のうちに全部分かってしまいます。そして“お早うございます”と挨拶すると、相手も返してくれるのでした。ある朝のこと、いつものようにバス停に向かって歩いて行ったら、ご常連ではない、小太りの、手足毛むくじらの短パン姿のおじさんがバスを待っていました。私は、いつも誰であろうと“お早うございます”と挨拶するように心がけていたのですが、この時、私の心によぎったのは、“ちょっとヘンなおじさん、へタに声をかけたらイヤなことが起こるかも知れない”と予感がしたので、何も言わないままに2番目に並びました。そうした途端、そのおじさんが“お早うございます”と挨拶したのです。“しまった！やられたか”と思いながら、すかさず私も挨拶をかわしました。そのうちに、近所にある大手証券会社の独身寮に住む2人のお兄さん達がやってきました。この人達は、いつも乗車しても経済新聞を読んでいるか、2人の仲間と話しているかどちらかなので、私も挨拶する勇気が出ないのです。そうこうしている内に、また中3くらいの子がやってきました。初対面ではないのですが、制服からして、ミッションスクールということは分かります。私は彼女にはすかさず“お早うございます”といいました。彼女は少しはにかみながら、小さい声で“お早うございます”と答えました。相互に通じ合えば気持ちがいいなあ、と思いましたが、途端に、私の胸中を横切ったのは、彼女は自分の学校のシスターと私を比較するかも知れないから、という、他人を意識しての挨拶だったかも知れない ということでした。

一番バスが来ました。私はさっきのおじさんの次だと思っていましたから、二番目に乗ろうと控えていました。するとさっきのおじさんが、“シスター、わたしは回数券を買うから、先に乗って…”というではありませんか。“シスターだって？あれ、この人は近所の人なんだ。そして何とやさしい人なんだ。私は先刻からの自分の心の動きに恥ずかしさを感じながら、一番バスのステップをふみました。“お早うございます。”これまた、私は朝のバスに乗るときは、必ず運転手さんに声をかけるようにしています。今までの経験では大体は応えてくれます。その日の運転手さんも、チャンと応えてくれました。何でもないことなのですが、今日一日のスタート点に立った時から、フレッシュな気持ちになれるのです。

バスは次々と停留所にストップしていきました。この停留所ではあの中学生のお兄ちゃんと会社員が、あの停留所では病院通いのご老人が付き添いつきで……といった



具合でバスに乗ってきます。一番前席に腰掛ける私には、自然に、乗車してくる人々の雰囲気はすぐ読み取れてしまいます。

素直に、心にわだかまりのない時は、表情も態度も、体全体で挨拶しているのです。本人自身は自覚できなくとも、朝の純粋な心を毎日保っていたいものです。それは“挨拶をしなければならない”という、心と頭が分離している状態から出るセリフではなく、心のほとぼしりから出る真実の澄んだ挨拶でなければなりません。その点で、この朝の私の挨拶は100点満点ではありませんでした。

これは相手に対してよくないということだけでなく、自分の心も、かけ引きのない、純粋性で満たされていないといけない、ということです。

愛はかけ引きでなく、“心からのほとぼしり”であって、それを真実に生きられたのが、神人イエス・キリストだった と思うのです。

お告げのフランシスコ姉妹会 Sr. 熊田 照子



# いのちの言葉 10月

キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける。  
(マルコ9・41)

イエスは、福音全体を通じて「与える」よう私たちを招いておられます。貧しい人々に与え、求める者や借りようとする者に与え、飢えている人に食べ物を与え、下着を求める者には上着も与え、無償で与えるようになどです。

イエスご自身、病気の人に健康を、罪人に赦しを、そして私たち皆に命を与えてくださいました。

イエスは、人間が本能的に持っている利己主義には「寛大さ」で、自分に必要なものへの執着には「他の人への心遣い」で、所有する文化に対しては「与える文化」で、対抗なさいます。

与えられるものが多いか少ないか、それは問題ではありません。大切なのは「どのように」与えるか、です。相手を思いやってする小さな行いの中に、私たちがどれほどの愛を注ぐことができるか、なのです。

マタイ福音書が語るように、時には一杯の「冷たい」水を与えることで、十分です。これは、パレスチナという乾燥した暑い国では、特に喜ばれるもてなしでした。

キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける。

「一杯の冷たい水」を差し出すのは、何気ない行いですが、神の名において、また愛のためにするならば、神の目には偉大な行為となります。

愛は様々な形で表現されるものです。愛する人は愛を表すための一番よい方法を見つけることができます。

愛する人は、自分のことを忘れるので、まわりへの心配りができます。

愛する人は思いやりがあり、相手の必要性に敏感なので、力を尽くして助けます。

愛する人は、ただ隣人のそばにいてあげて、相手の話を聞き、いつも心を開いて、具体的に助けることを知っています。

まわりで苦しんでいる人がいる時、私たちは助けてあげるつもりで、あまり適切でないアドバイスをしたり、長々と話したりして、相手をうんざりさせ、重荷を与えることが、どれほどあるでしょう。

そうではなく、私たちが兄弟一人ひとりの傍らで、ただ「愛そのもの」でいるよう努めることが大切です。そうすることで、私たちは兄弟の心の中に入るためのまっすぐな道を見出し、相手の重荷を軽くしてあげることができるでしょう。

キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける。

今月のいのちの言葉は、私たちの行動一つひとつの価値を再発見させてくれます。家事をする時、畑や工場、オフィスで働く時、学校の宿題をする時、社会・政治・宗教面での務めを果たす時など、私たちはそれらすべてを「心遣いと思いやりの奉仕」へと変えていくことができるのです。

愛そうとする時、私たちには新しい目が与えられ、相手の必要としていることがわかるようになり、色々なアイデアも使って寛大に助けることができるようになります。

このように生きる時、どんな実りが生まれてくるでしょう。愛は愛を呼び覚ますので、私たちの愛に対して、相手も愛で答えるようになり、愛が循環するようになるでしょう。「受けるよりも与える方に喜びがある」と記されているように、喜びを味わう人が多くなるでしょう。

キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける。

第二次世界大戦中、私たちが住んでいた北イタリアの町トレントには、非常に貧しい人々の地域がありました。私たちは自分の持っているものを分かち合うため、この人々を訪問し、彼らの生活を向上させて、すべての人にある程度の平等が実現するよう望みました。

これは、ごく単純な考えでしたが、思いもよらぬ実りがもたらされました。私たちのもとには、本当にたくさんの食料品や洋服、医薬品などが届き、私たちはそれを貧しい人々に分かち合う、というサイクルが生まれたのです。こうして私たちは、福音を生きることの中に、個人と社会のすべての問題に対する答えを見出せるのだ、と確信しました。

この確信は、ユートピアに終わりませんでした。現在、何百もの会社が「共有の経済」というプロジェクトに参加しています。これは、「与える文化」を基盤として会社経営を行い、社会の善のために利益を分かち合うプロジェクトです。困難な状態の人々を助けるため、職場を提供したり、必要最低限の生活ができるよう経済的に援助したりします。

ただし、貧しい人の数は多いので、共有の経済の会社利益だけでは、すべての必要を満たすことはできません。そこで一九九四年から、私たちの中で多くの人が、貧しい人々のため、毎月少額のお金を集めるようになりました。

こうして現在では、55ヶ国で7千人の人を助けています。

寛大に「一杯の水」を与え、受ける経験

は、数え切れないほどありますが、フィリピンから届いたひとつの経験をご紹介します。

「私たちは肉屋をしていましたが、動物の伝染病が起こったため、店はつぶれてしまいました。借金をするはめになり、生活の見通しもまったくつきませんでした。しかし、皆さんからの定期援助のおかげで、毎日食べていくことができるようになりました。やがて私は『自分よりも困っている人を助けなければ』と思いました。近所には、病気でとても苦しんでいて、物質的にも助けを必要としている女性がいましたので、私は、彼女が天に召される時まで助け、彼女の5番目の息子を経済的に支えることも決めました。この子の父親は、私たちよりもずっと貧しく、それができなかったからです。」

キアラ・ルービック  
(2006.10)

★ いのちの言葉はその月の主日のミサで朗読される聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

いつも自転車で帰ってくる高校生の長男が、がっかりした様子で歩いて帰宅しました。4度目の自転車盗難にあったのです。前の3回は神様の計らいで見つかりましたが、今回は無理だろうと思いました。その晩、私たちが里親になっている子のお母さんが、フィリピンから長崎に来ていることを知りました。私たちはフォコラーレを通じて、8年前から、あるフィリピンの子供を援助しています。経済的に余裕があるからというより、兄弟を愛することの大切さを感じたからでした。さて、この家族が住むフィリピンの町で、火事のために三百世帯ほどの人が家を失ったと知り、私たちは自転車を買うためのお金の中から寄付を準備しました。また里子のためにサンダルのプレゼントとお母さんのためにケーキを作って、彼女に会いに行きました。彼女と別れて家に帰ると、「自転車が見つかった！」と息子が喜んで迎えてくれました。私たちは、すべてをご存知でおられる神様の大きな愛を感じました。(長崎・H)

フォコラーレ: 連絡先: 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail: tokyofocfem@ybb.ne.jp

いのちの言葉のホームページ

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/>

神を見たいと苦悩する魂の歌 (抜粋Ⅱ)

あなた <sup>なく</sup>不在しては  
どんな生を <sup>いのち</sup>生きえよう？  
それは 生きるどころか 死を受けることではないか  
かつて <sup>あ</sup>遭ったこともない 最もひどい死を？  
<sup>みずか</sup>自らを 哀れと思う  
こんなに 堪え抜いているから  
死んでいない故に 死ぬ程に。

水を離れた魚さえ  
<sup>やすら</sup>憩いが ないわけではない  
何故なら 受けている死の中に  
遂に 死を 得るのだから。  
私の哀れな <sup>いのち</sup>生に等しい <sup>ひと</sup>  
どんな死が あろうか？  
生きれば生きる程 もっと死ぬのだから。

秘蹟のうちに あなたを見て  
<sup>やす</sup>憩らおうと 思うとき  
あなたを 楽しみ得ないことが  
一層 私を 悲しませる  
<sup>のぞ</sup>欲むだけ あなたを見られないので  
すべては 一層 苦しみのもととなる  
死んでいない故に 死ぬ程に。

あなたを見る との希望で  
よろこぶとしても 主よ  
あなたを失い得ると思うと  
苦しみは 倍加する  
これ程の憧れと期待を抱いて  
しかも これ程の <sup>おそれ</sup>恐怖の中に生きながら  
死んでいない故に 死ぬ程に。

## この群れをどこに導きたもうか、主よ！！

スッカ

ネパールのポカラで、知的障害者通所施設、セワ・ケンドラができて二年半。  
現地は、ネパール人の教師4人と用務員1人、通所者14名（12歳から25歳）  
日本の支える仲間は、通称大天使ミヤとスッカを中心に、その友人知人。  
どこからの援助もない。大天使ミヤのボーナスや定期、スッカの積み立て金、心ある人々  
から寄せられるもの。これで現地のすべてをまかなう。家賃や給料、教材・給食も。  
現地で責任者二名（夫婦）と日本の責任者大天使ミヤとスッカの四人は親友。  
カトリック。合言葉は「必要なものは与えられる」これで過ごしてきた二年半。  
はい、確かに与えられましたとも！！ 与えられないものは必要ではないものだよね！

今、セワ・ケンドラは、笑顔に満たされた日々。  
問題点、改善点は山とある。お金も物も、システム化されたデータ集積もない。  
でも、一番大切なものは最初からある。今もある。  
どこよりもたくさんあるのが 「笑顔」 「笑い声」  
これ以外の何をそれより必要としようか！！

責任者夫婦の姿勢は、おおらかでユーモアに富んで、やさしい。忍耐強い。  
彼らの次女はダウン症だ。他人事ではない。セワ・ケンドラの通所者の姿は、わが子の姿  
に重なる。だからこのセワ・ケンドラだけでなく、外の施設やNGOとの連携も試みている。

大天使ミヤは年に二度、スッカは年に一度、自費でここを訪ね、運営や経理について相談  
する。現地サイドと日本サイドの息はピッタリ！ だが、信仰と信頼でつながっている  
とはいっても、会計監査は別。「一生、良い友達でいたいから、監査はうんと厳しくする  
ね！」と。第三世界への援助が現地の人をスポイルしている例をいやというほど知る大天  
使ミヤやスッカは、この点はゆずらない。

セワは20人ほどの小さな群れ。それを支える日本の決して豊かではない仲間の群れ。  
お金も乏しく、健康でもなくネパール語も英語もできないスッカにある老司祭が言った。  
「大丈夫です。愛があれば」 「きっと神さまが応援してくださいます」

「親方・神さま」で二年半、笑顔と感謝に迎えられ、送られ、この夏の訪問を終えた。  
主よ、お守りください。導いてください。この小さな群れを！！

<http://sewa.pokhara.jp/> 「セワ・ケンドラの日々・みんな生まれてきてよかったね！」  
どうぞご覧ください。そしてお祈りください。この群れのために。

# 学びの子に

一人の子をとおして皆の子へ

蛭田 幼一

僕はきみに何か言いたかった きみの

さみしそうな様子を ときどき思い浮かべては

僕は何を言いたかったのだろう

それを考えるために詩を書いている

仕方のないことだった こうなってしまったのは

そういうことって たくさんある

愛は柔和で高ぶらず 人の傷みを知っている

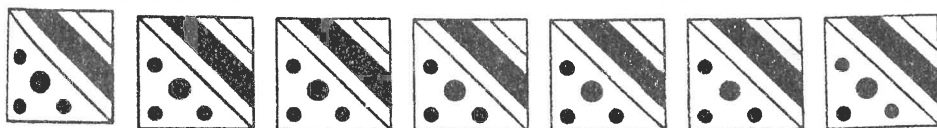
これだけがこころの慰めであり

これだけがあらゆる問題の解決策だ

いつかきみにこの詩を読むときが訪れるまで

僕は待つつもりだ そのとき分かる 御心ならば

結局人の力は無力なのだ



# カルメル会の企画案内



内案画全の会ハスハ氏





# 福者三位一体のエリザベットの帰天百周年記念

1880年にフランスのブルージュに生まれ、1901年にディジョンのカルメル会へ入会、5年間の修道生活の後、百年前の1906年11月9日、26歳の若さで亡くなった福者三位一体のエリザベットの帰天百周年も終わりに近づいています。

今月11月は、8日（水）の夜に、カルメル会固有典礼で晩の祈りとミサを行います。11日（土）には、上野毛男子カルメル会修道院から調布女子カルメル会修道院まで「徒歩巡礼」を企画しています。

アジソン病という不治の病にかかりながら、「私はキリストと共に十字架につけられた」、「今、私は、キリストの体である教会のために、キリストの苦しみになお欠けているところを、私の肉体において補っている」というパウロの言葉を文字通り生き抜いた聖女の霊性を、私たちもささやかな巡礼を通して、身につけてゆきたいと願っています。

また「神は私の内に、私は神の内に」という神の現存の霊性が、21世紀に生きる私たちの霊的生活をより生き生きとしたものにしてくれることを信じ、彼女の霊性が世界中の人々に知られるよう、列聖運動が促進されるよう祈りたいと思います。



## \* 帰天百周年記念の典礼

日時：11月8日（水） 午後7：30 晩の祈り  
午後8：00 ミサ（司式：P. 九里）

場所：カルメル会上野毛修道院聖堂（上野毛教会）

## \* 調布女子カルメル会までの徒歩巡礼

日時：11月11日（土） 6：15 上野毛修道院マリア像前に集合  
6：30 出発（約2時間で喜多見教会へ）  
喜多見教会で「祈り」と「休憩」  
9：00 喜多見教会出発  
（約1時間50分で調布女子カルメル会へ）  
11：00 記念ミサ（司式 P. 九里）  
（終了後、昼食。その後解散）

上野毛霊性センター '06年4月～'07年3月

A 黙想企画 \*\* 聖テレジア修道院(黙想) \*\*

1.聖書深読(毎回土曜日 夕食～日曜日16時)

12月 9日～10日 松田浩一師

07/ 2月24日～25日 九里彰師

2.奉獻生活者のための黙想会

C.12月26日(火) 夕食～07/1月4日(木) 朝 九里彰師

3.木曜黙想会 一般黙想(毎回木曜日 10時～16時)

12月21日 幼子の平和 九里彰師

07/2月15日 ザアカイの回心 九里彰師

4.金曜黙想会 カルメルの聖人(毎週金曜日 10時～16時)

11月17日 アヴィラの聖テレジアの「謙遜」と「離脱」 九里彰師

07/1月12日 十字架の聖ヨハネによる「生きる神との出会いの幕屋」 松田浩一師

3月16日 アヴィラの聖テレジアによる「主の証し人」 松田浩一師

5.青年黙想会 九里彰師 神学生

11月25日(土) 16時～26日(日) 16時

6.召命黙想会(男女) 九里彰師、松田浩一師(夕食を済ませてご参加ください)

11月3日(金) 20時～5日(日) 16時・・・(別ページ参照)

7.大祝日のミサに与かるために

【クリスマス】 12月24日(日)～25日(月) 《講話、夕食なし》

チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時

8.特別黙想会 伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ) 夕食を済ませてご参加ください。

・【神の現存を生きるエリザベット】 カルメル会入会前までの生き方。

11月10日(金)午後8時~12日(日)午後4時

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。  
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので  
なるべくFAX・はがき・Eメールをお願いします。(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)



## B カルメル靈性研究クラス（九里 彰神父）注意！開始時間変更

- \* 十字架の聖ヨハネ『靈の賛歌』
  - 11月15日 「第25の歌」
  - 11月29日 「第26の歌」
  - 12月13日 「第27の歌と第28の歌」
- \* アヴィラの聖テレジア『完徳の道』
  - 11月1日 (第30章と第31章)
  - 11月22日 (第32章と第33章)
  - 12月6日 (第34章と第35章)
  - 12月20日 (第36章と第37章)

どちらも水曜日夜7：15～8：45まで。テキストを少しずつ読み、解説と分かち合いがあります。上野毛教会信徒会館2階26号室。無料。

## C 祈りの集い（九里 彰神父）注意！開始時間変更

- 11月24日 「わたしの国は、この世には属していない。」
- 12月22日 「恐れるな。私は、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。」

毎月一回金曜夜7：15分より。上野毛聖テレジア修道院（黙想）小聖堂。都合の悪い場合は、上野毛教会信徒会館ホールで。無料。

- 7：00～8：00 み言葉と念祷
- 8：00～8：30 分かち合い（参加自由）

## D キリスト者の信仰の歩み～キリスト教靈性の初歩～

（松田 浩一神父）

第六回 11月3日

第七回 12月1日

毎月、初金曜日。但し、7月、8月はお休み。

- 7：00～7：30 初金ミサ （上野毛教会聖堂）
- 7：40～8：40 勉強会 （上野毛教会信徒会館2階26号室）

- \* 参加費は無料。対象はキリスト者としての信仰を深めたい人とキリスト教に関心のある人。



## 三位一体のエリザベット帰天100周年記念

一日黙想会 『三位一体への祈り』

講師；九里彰神父 (CDO)

エリザベットは、1880年にフランスのブルジュに生まれ、1901年にディジョンのカルメル会へ入会しました。5年間の修道生活の後、100年前の1906年11月9日26歳の若さで亡くなるまでに、「神は私の内に、私は神の内に」と三位一体の現存の神秘をひたすら生き抜きました。

全世界のカルメル会は、今年2006年を福者三位一体のエリザベット帰天百周年として祝っています。



10月28日(土)

- 10:00 第一講話
- 11:00 各自黙想 (赦しの秘跡をお受けできます)
- 12:00 お告げの祈り  
昼食 (信徒会館ホールで)
- 13:15 第二講話
- 14:15 各自黙想 (赦しの秘跡をお受けできます)
- 15:15 ミサ
- 16:00 解散

日時；10月28日(土) 10時~4時

場所；上野毛教会聖堂 (カルメル修道会)

参加費無料・昼食は各自持参

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

Tel 03-3704-2171 Fax 03-3704-1764



# 神の国と諸聖人の交わり

慈しみ深い神を探す若者たちの集い (C.Y.C.)

共に聖書の中で言われている神の国を眺めながら、そこに住んでおられる諸聖人が現在のわたしたちの霊的歩みにどのように関わっているかを見ることにしましょう。

**日時： 11月3日(日)13:30から16:30まで。**

**対象： 18歳以上30歳までの青年男女。**

**スタッフ： 上野毛修道院のカルメル会士たち**

**場所： カルメル会聖テレジア修道院(黙想)  
東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩5分**

## プログラム：

- 13:30～ 受付開始(13:45～：はじめの祈り)
- 14:00～14:40 聖書の中の「神の国」について講話
- 14:40～14:50 休憩
- 14:50～15:30 私たち生活(霊的歩み)と諸聖人の交わり
- 15:30～16:00 青年たちのための祈り・賛美・祝福
- 16:00～16:30 茶話会
- 16:30 解散



参加ご希望の方は、お手数でも FAX または E-mail に住所・氏名・年齢をお書きの上、下記宛に送ってください。当日の飛び入り参加も OK です。直接会場にお越しください。

カルメル会では若者の集い『カルメル・ユース・クラブ』を行っています。カルメル家族に支えられて、イエス・キリストが示してくださった「いつくしみ深い神の姿」を追い求め、その神様に出会おうとする集まりです。この集まりは、家庭的な雰囲気の中で、「隠れている宝」に対する信仰を養っていきます。今後の予定；2006年12月23日(土)、2007年1月14日(日)、2月12日(月)

(連絡先・問い合わせ)  
カルメル修道会カルメル・ユース・クラブ  
(C.Y.C.) 係 松田神父  
〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25  
TEL 03-3704-2171 FAX 03-3704-1764  
E-mail [tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)  
[carmeltokyo@yahoo.co.jp](mailto:carmeltokyo@yahoo.co.jp)



…召命黙想会…

**水を飲ませてください**



～イエスの思いはあなたの心にひびいていますか……？～

対象：40歳以下の青年男女

日時：11月3日（金）午後8：00～11月5日（日）午後3：00

場所：聖テレジア修道院（黙想）

指導：九里神父、松田神父

費用：一般 10.000円 学生 5.000円

申込み方法 Fax、ハガキ、あるいはE-mailでお名前と連絡先をご記入の上、10月30日までにお申込みください。

カルメル修道会招命黙想係

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

FAX 03-3704-1764

E-mail [Tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:Tokyo@carmel-monastery.jp)

東京

## 特別黙想会

テーマ 【神の現存を生きるエリザベット】

・・・カルメル会入会までの日々の生活において

講師；伊従信子（NDV）



イエス・キリストによって  
もたらされた三位一体の生命を生きることは  
なんとすばらしいことでしょう。  
主はご自分が「命」であり  
私たちにそれをあふれるばかりに  
与えるために来られたことを  
繰り返し言われました。

カルメル会入会前のエリザベット

参考書：「あかつきより神を求めて」ドン・ボスコ社  
「神は私のうちに、私は神のうちに」 聖母の騎士文庫  
（教会、または聖テレジア修道院（黙想）でもお求めになれます）

日時； 11月10日（金）午後8時～12日（日）午後4時  
場所； カルメル修道会上野毛聖テレジア修道院（黙想）  
10日は夕食を済ませてご参加ください  
参加費用； ¥12,000

お申し込み、問い合わせ

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25  
カルメル修道会上野毛聖テレジア修道院（黙想）  
Tel 03-5706-7355 Fax 03-3704-1764  
Eメール mokusou@carmel-monastery.jp



# 青年男女のための黙想会

まことのコムニオを求めて  
—現代社会の中で—



日 時 : 11月25日(水)16時 ~ 11月26日(金)16時

場 所 : 上野毛 聖テレジア修道院 (黙想)  
(東急大井町線上野毛駅より徒歩5分)

対 象 : 高校生以上の青年男女 (35歳まで)

定 員 : 20名

指 導 : 九里彰師・神学生

費 用 : 5,500円 学生 4,000円

参加ご希望の方は、ハガキ・  
FAX・E-mail のいずれかで  
住所・氏名・年齢・電話番号を  
ご記入の上 11/21(水)までに  
下記宛お申込み下さい。(必着)

(お問い合わせ 及び お申し込み先)

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)

TEL (03)5706-7355 / FAX (03)3704-1764 / E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

\*\*宇治聖テレジア修道院(黙想)\*\*

1. 聖書深読

① 一泊二日 (午後5時～午後4時)

11月11日(土)～12日(日) 中川博道神父

07/ 1月27日(土)～28日(日) 新井延和神父

3月10日(土)～11日(日) 渡辺幹夫神父

② ミニ深読 (午後14時～午後16時)

12月19日(火) 深読スタッフ

07/ 2月13日(火) 深読スタッフ

2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

11月 8日 三位一体のエリザベット アロイジオ神父

12月13日 十字架の聖ヨハネ 中川博道神父

07/ 1月10日 一年の歩み 新井延和神父

2月14日 聖ヨゼフ 中川博道神父

3月14日 主の十字架 渡辺幹夫神父

3. 四旬節黙想 (午後5時～午後4時)

07/ 3月 3日(土)～4日(日) 新井延和神父

4. 待降節黙想 (午後5時～午後4時)

12月2日(土)～3日(日) 渡辺幹夫神父

5. 聖テレズスの黙想 ……終了しました

6. 奉献生活者の黙想 (午後5時～午前9時)

10月22日(日)～31日(火) カルメロ神父

12月27日(水)～1月5日(金) 渡辺幹夫神父

7.青年黙想会（午前10時～午後4時）

11月5日（日）

カルメル宣教修道女会 カルメル会士

---

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

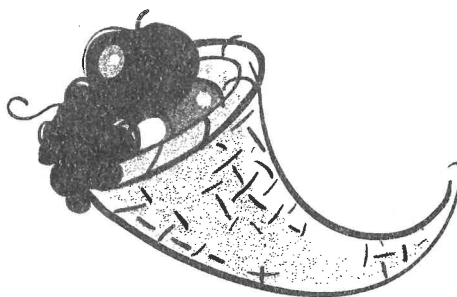
\*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないこともあります。その際は、おそれいりますが後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-32-7457



# 「立ちどまって、ひとりになって、感じてみよう！」

## ～都会の中の一泊静修～（2006）

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたかたと共にいる。」（マタイ28：20）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかたはどうか。  
若者の召命、仕事の刷新、家庭生活の充実、老後のプランなどについて、イエス様からヒントをいただきましょう。カルメル・ファミリーがお手伝いします。

第1回	1月10日（火）	霊的生活	松田浩一神父（上野毛修道院）	了
第2回	2月11日（土）	三位一体のエリザベット（1）	中川博道神父（宇治修道院）	了
第3回	3月21日（火）	主イエスを着せられて新しい人に	カルメロ神父（宇治修道院）	了
第4回	4月25日（火）	新しいぶどう酒は新しい皮袋に	アダミニ神父（日比野修道院）	了
第5回	5月13日（土）	聖母マリア	松田浩一神父（上野毛修道院）	了
第6回	6月27日（火）	三位一体のエリザベット（2）	九里章神父（上野毛修道院）	了
第7回	7月15日（土）	カルメル山の聖母	中川博道神父（宇治修道院）	了
第8回	9月12日（火）	幼いイエスの聖テレジアの祈り	カルメロ神父（宇治修道院）	了
第9回	10月17日（火）	アヴィラの聖テレジア	アダミニ神父（日比野修道院）	了
第10回	11月23日（木）	十字架の聖ヨハネ	九里章神父（上野毛修道院）	了

- \* 時間 AM10:00～PM4:00
- \* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分)  
(駐車場は利用できません。)
- \* 費用 1,000円
- \* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- \* 定員 約15名
- \* プログラム
  - 10:00～ 祈り
  - 10:40～ 講話【1】
  - 12:00～12:45 昼食
  - 12:50～ 赦しの秘跡または短い面接
  - 13:30～ 講話【2】
  - 14:45～ ミサ
  - 15:30～ 茶話会
  - 16:00～ 終了

☆ 空いている時間に、赦しの秘跡または短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

名古屋カルメル霊性センター一泊静修係

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

または、〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115 小林厚 TEL/FAX 052-701-3685

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 3 京 都

11月11日（土） 新井延和神父

12月 9日（土） パトリック オハール神父

\*日曜日の福音を深く味わい、分かち合い、解読で学びながら福音を深く心に刻む  
聖書深読黙想会に、どなたでもご参加ください。

場 所：河原町カトリック会館6階又は7階

費 用：各回 2,500 円（昼食代を含む）

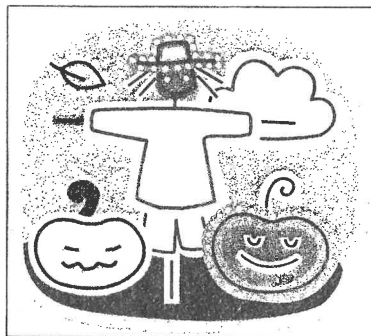
時 間：午前10時～午後4時 持参品：聖書・筆記用具・ノート

申し込み・問い合わせ （お申し込みは、各回3日前までに）

〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル

河原町カトリック会館内 聖書委員会

TEL：075-211-3484 FAX：075-211-3910



## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 15,950円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

### 2 有光信子さんのグループ

参加者は「素読表」（B5あるいはその半分に、記号、全、及び思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはないので、コメントや解読はない。

費用：1回 300円 年 10回 3,000円

送り先：〒663-8033 西宮市高木東町 31-20-504 有光信子

TEL/FAX 0798-67-8132

### 3 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrベアトリス指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srベアトリスまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

#### 聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srベアトリス

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

## カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」(2006年特集号)

### 「二十一世紀の人々へのメッセージ」

#### 福者三位一体のエリザベットの霊性

- エリザベットとともに生きる関わりの神秘 …伊従信子  
歴史の中の三位一体のエリザベット …大瀬高司  
三位一体のエリザベットの生涯とメッセージにこだまする聖書の言葉  
…ベアトリス・ディクナ  
三位一体のエリザベットと福音宣教 …北村喜朗  
三位一体のエリザベットが示す平和と幸福 …九里 彰

雑誌「カルメル」No. 322 (2006年秋号)

### 「今日の霊性」

#### 聖書

聖霊の光の下に —— 聖書と教父 (3) …高橋正行

#### カルメルの諸聖人

信仰による照らし —— 第三講話(第三部) …フェデリコ・ルイス

アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味 (3)

—— 『靈魂の城』を中心にして …九里 彰

三位一体のエリザベット帰天百周年にあたって …伊従信子

—— (3) 最後の日々

エデット・シュタインの神への道行き (1)

—— アヴィラのテレサとの邂逅とその影響…須沢かおり

愛で生きる (2) …ペトロ・アロイジオ

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (14)

—— 神よ、あなたはどこに …伊従信子

#### 霊性一般

【靈的講話】今、光を生きる …中川博道

“生きるために死ぬ”ということ …森 みさ

愛の断章 (1) …奥村一郎

※年5冊(春夏秋冬号+特集号)会員頒布価格：3000円(送料込み)

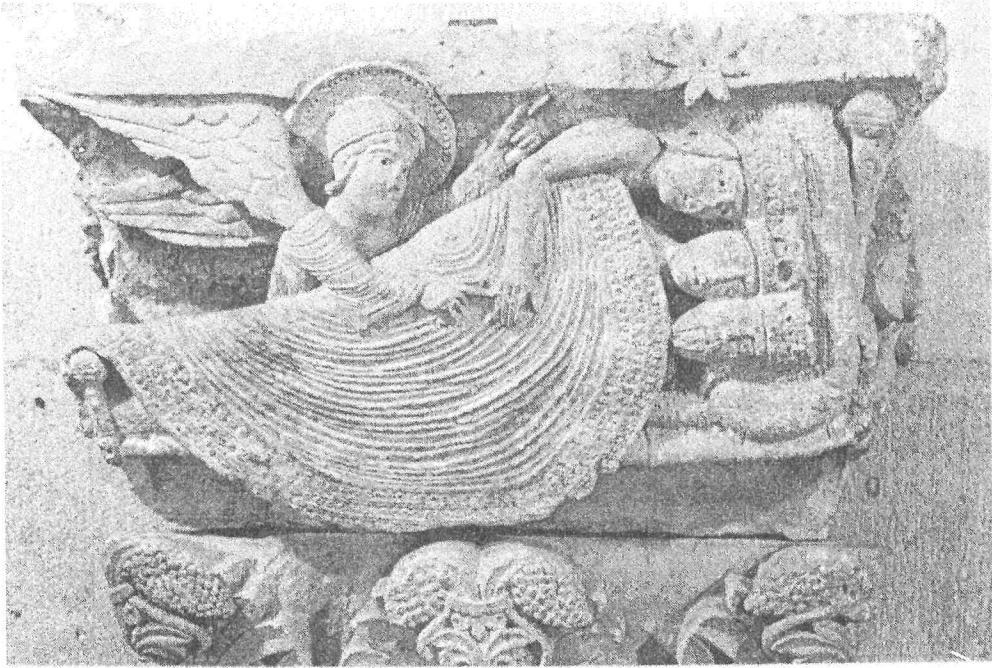
郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会

(どなたでも購入できます。電話でのご連絡は、事務担当竹田：Tel03(5706)8356迄)

## 待望の再販

『自叙伝』(サンパウロ社)

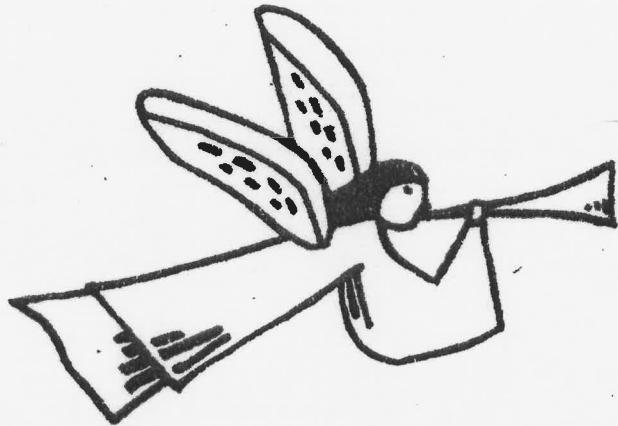
『創立史』・『完徳の道』・『靈魂の城』(ドン・ボスコ社)



AUTUN  
Cathédrale Saint-Lazare  
Sommeil des Mages (XII<sup>e</sup> s.)



## 諸所の企画案内



CWC (キリスト者婦人の集い)

心のいほり

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

真命山靈性交流センター

マリアのみ心会

ノートルダム・ド・ヴィ

内家画金の商部



(ワ業の人職書イスリキ) CWC

ヨリノ心

運業進イスリキ父幹一ハ一てじサ一リ

一タ一じサ業交封業山命真

会心るのてリマ

トウ・ヤ・ムヤハ一

# 諸所の企画案内

## 【CWC 講話会】

「キリスト者婦人の集い」主催 講師：九里 彰神父（カルメル会）  
場所：真生会館4階第8会議室 時間：午前10時30分～12時  
対象：キリスト教に関心のある方はどなたでも。

## 聖書深読入門

原則として第二火曜日

**2006年**

11月14日（火）

12月12日（火） この日は簡単に聖書深読を行い、その後、感謝ミサ。

**2007年**

1月9日（火）

2月13日（火）

3月13日（火）

4月10日（火）

5月8日（火）

6月12日（火）

7月10日（火）

まずその日の聖書箇所を「輪読」し、沈黙の内に「素読」。その後、皆で「合読」（分かち合い）をし、講師の「解説」があります。「合読」での発言はまったく自由で、パスされても結構です。

## 内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は6泊7日で全てを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターにお問い合わせ下さい。電話では取次いでおりません。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」

藤原神父 FAX 072-802-5026

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

### ★ 2006年度予定 ★

F2	2006年	4月23日(日)2時から	4月29日(土)2時まで	横浜・戸塚	了
M1	2006年	5月26日(金)2時から	6月1日(木)2時まで	盛岡・白百合	了
N2	2006年	6月7日(水)2時から	6月13日(火)2時まで	京都唐崎ノートルダム	了
F3	2006年	6月18日(日)2時から	6月24日(土)2時まで	横浜・戸塚	了
N3	2006年	7月2日(日)2時から	7月8日(土)2時まで	京都唐崎ノートルダム	了
Y1	2006年	7月23日(日)2時から	7月28日(土)2時まで	神戸須磨ヨハネ	了
P3	2006年	8月13日(日)2時から	8月19日(土)2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	了
F4	2006年	9月17日(日)2時から	9月23日(土)2時まで	横浜・戸塚	了
B2	2006年	10月22日(日)2時から	10月28日(土)2時まで	札幌厚別ベネディクト	
F5	2006年	11月12日(日)2時から	11月18日(土)2時まで	横浜・戸塚	
P4	2006年	11月26日(日)2時から	12月2日(土)2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	

### ★ 2007年度(決定しているものだけ) ★

K1	2007年	1月21日(日)4時から	1月27日(土)2時まで	東京・小金井・聖霊会	
B1	2007年	1月29日(月)2時から	2月4日(日)2時まで	札幌厚別ベネディクト	
Y1	2007年	2月10日(土)2時から	2月15日(金)2時まで	神戸須磨ヨハネ	
P1	2007年	2月22日(木)2時から	2月28日(水)2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	
N1	2007年	3月4日(日)2時から	3月10日(土)2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム	
K2	2007年	3月18日(日)4時から	3月24日(土)2時まで	東京・小金井・聖霊会	
K3	2007年	6月3日(日)4時から	6月9日(土)2時まで	東京・小金井・聖霊会	
P2	2007年	6月17日(日)2時から	6月23日(土)2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	
N2	2007年	6月26日(火)2時から	7月2日(月)2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム	
Y2	2007年	7月22日(日)2時から	7月28日(土)2時まで	神戸須磨ヨハネ	
P3	2007年	8月10日(金)2時から	8月16日(木)2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	
K4	2007年	9月9日(日)4時から	9月15日(土)2時まで	東京・小金井・聖霊会	
B2	2007年	10月17日(水)2時から	10月23日(火)2時まで	札幌厚別ベネディクト	
N3	2007年	11月2日(金)2時から	11月8日(木)2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム	
K5	2007年	11月11日(日)4時から	11月17日(土)2時まで	東京・小金井・聖霊会	
P4	2007年	12月3日(月)2時から	12月9日(日)2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	

## リーゼンフーバー神父 講座 集いの案内

1. キリスト教入門講座 (38 ページをご覧ください)
2. キリスト教理解講座 (39 ページをご覧ください)
3. 聖書研究会  
日時：木曜日 12時40分～13時25分 (上智大7号館316号室)  
学生のだなたでも、新約聖書を1章ずつ読んで話し会います。
4. 座禅会 (40 ページをご覧ください)
5. ミサ  
日時：水曜日 17時10分～18時 (8月を除く)  
場所：上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂 どなたでも
6. 黙想  
日時：水曜日 18時～18時30分 (8月を除く)  
場所：上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂 どなたでも
7. 祈りの集い  
日時：下記の土曜日13時30分～16時 講話、黙想、ミサ。  
11/18. 12/9.  
2007, 1/13. 2/3. 3/10  
場所：上智大学内S. J. ハウス第5会議室  
\*：ロザリオの祈り 同日16時15分～16時55分  
クルトゥルハイム1階右小聖堂
8. 黙想会  
日時：12/2 (土) 10時～3日 (日) 15時. 東村山  
2007, 2/24 (土) ～2/25 (日) 15時. 上石神井  
一泊5,800円
9. アガペ会 下記の日、説明会13時30分と集い14時～18時  
10/29 (日). 2007, 1/21(日)
10. クリスマス会 聖イグナチオ教会信徒会館ヨセフホール(申し込み)  
日時：12/16 (土) 16時30分～  
\*：ミサ 12/23 (土) 14時～上智大学内クルトゥルハイム聖堂

# リーゼンフーバー神父 キリスト教入門講座

2006～2007年

このクラスでは、開かれた雰囲気の中で人生の問題に対する聖書の答えを聞くことを通して、キリスト教の教えを包括的に学び、信仰に基づいた生活態度の形成を目指します。  
(受講は無料です)

**対象** キリストの教えを学び、信仰を自分自身の問題として考えたい方。  
どなたでも歓迎です。キリスト教の予備知識は必要ありません。

**内容** 1時間半の講話では、人間のあり方と現代的な問題意識から出発して、聖書のメッセージを徹底的に取り上げ、キリスト教を理論的にも実践的な意味からも説明します。また、黙想会などを通して祈りや信仰体験を深める機会もあります。1年間の講座を通してキリスト教の基本的な教えの全体をテーマ別に取り扱います。

1年間のプログラムになっていますが、中途参加をされても結構です。また、その日のテーマに興味を持たれた場合は、どうぞお出かけください。なお、このクラスは受洗を希望する方にとって、十分な準備となります。

**日時** 毎週金曜日 18時45分～20時30分

**場所** 聖イグナチオ教会 (四谷駅前) 信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

- |        |                                   |
|--------|-----------------------------------|
| 10/27  | 信仰の決断—支えられて生きる                    |
| 11/10  | ミサ祭儀—神への奉仕と生活の糧                   |
| 11/17  | 自己実現と神の意志—生き方の規範                  |
| 11/24  | 人間の弱さ—罪とは何か                       |
| 12/1   | 恵みとゆるし—神の憐れみを受ける                  |
| 12/2—3 | ●黙想会                              |
| 12/8   | 愛の心—キリスト教の本質                      |
| 12/15  | 隣人愛—他人のうちにイエスに出会う                 |
| 12/16  | クリスマスのミサとパーティ (教会信徒会館ヨセフホール) (予定) |
| 12/22  | 希望を持つ勇氣—未来へ向かって進む                 |
| 12/23  | ミサ (14時・上智大学内クルトゥールハイム2階)         |

# リーゼンブーバー神父 キリスト教理解講座

2006年～2007年

日時 毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分

場所 カトリック麹町聖イグナチオ教会 信徒会館3階アルペホール 電話 03-3263-4584  
JR中央線・総武線、地下鉄丸の内線・南北線 四ツ谷駅徒歩1分

対象 キリスト教についての基礎知識をもち、信仰をより深く考えたい・理解したい・  
生きたい方はどなたでも歓迎です。

内容 人生を支える信仰の力と豊かさを発見するために、キリスト教の内容を包括的かつ  
徹底的に知るよりも、優れた道はないでしょう。本講座では信仰の中心的な諸テーマ  
を解明することを通して、その基盤と意味を探求し、理論的理解を深めるとともに信  
仰生活に指示を与え、充実した祈りへの道も開きます。現代の問題意識を常に背景に  
しながら、聖書を元に、古代と中世の奥深いキリスト教思想を参考にして、信仰を人  
間論的・神学的・哲学的な観点から展開します。専門的な知識は前提とされませんが、  
入門講座程度の基礎知識は必要です。2年間の計画になっていますが、本年度は信仰  
の内容に重点を置き 次年度は信仰の実践を取り扱う予定です。途中参加・部分参加  
も可。講座は無料です。

日時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

10/31	[救い]	和解する愛—弟子に心を開くイエス
11/7		受難による救い—イエスの救済的役割
11/21		死からの命—復活の認識・経験・理解
12/2-3		●黙想会
12/5	[聖霊]	聖霊の働き—神の内的現存
12/16		クリスマスのミサとパーティ <u>(教会信徒会館ヨセフホール) (予定)</u>
12/19		三位一体の神—救いの構造から神内の存在へ
12/23		ミサ (14時・上智大学内クルトゥルハイム2階)



## 坐 禅 会

月曜日 : 17時20分～20時10分

木曜日 : 18時～20時30分

場 所 : 上智大学内クルトウルハイム 1階正面左の部屋  
3回坐り、間に講話があります。

初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

## 接 心 2006年度

### 関東

~~4月29日(金)20時30分～5月5日(金)13時~~

~~6月23日(金)20時30分～23日(日)13時~~

~~8月9日(水)20時30分～16日(水)13時~~

10月31日(火)20時30分～11月5日(日)13時

秋川神冥窟  
1泊2400円程度

### 関西

~~5月13日(土)13時～14日(日)16時~~ 宝塚市 ②

~~7月31日(月)17時30分～8月6日(日)13時~~ 宝塚市 ①

連絡先 ① シスター田中 電話 0797-84-7863

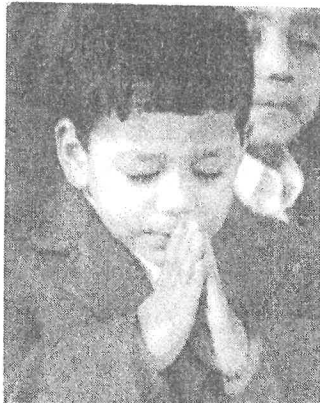
② 岸本 正 電話 078-583-3067

指導と問い合わせ先 :

クラウス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス

電話 03-3238-5124 (直通)、5111 (伝言)、FAX 03-3238-5056







# 生命山の靈性

## 真命山

2006年度のご案内

祈りの集い(毎月 午前10時～午後3時)

年間テーマ:

三位一体の唯一の神と共に生きる

自然

神はすべてを作り、  
人の手に委ねられた

陽の昇るところから  
陽の沈むところまで

祈り

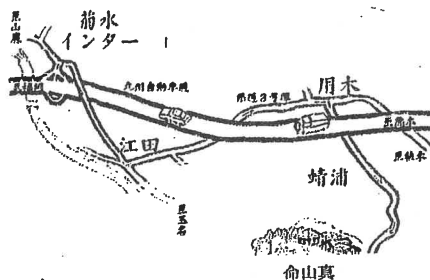
静けさ

沈黙の中に神の  
言葉を聞こう

信仰体験を分かち

交わり

- 1月12日 3人の旅人の姿をもって現れた神 了
- 2月 9日 イエス様をとおして現れる三位一体の神 了
- 3月 9日 ルプロフの三位一体の神 了
- 4月 6日 父である神 了
- 5月11日 子である神 了
- 6月 8日 聖霊である神 了
- 7月13日 ルプロフのイコンの前で祈る 了
- 9月14日 父と子と聖霊の名による洗礼 了
- 10月12日 三位一体から御聖体の神秘へ 了
- 11月 9日 三位一体の唯一の神と共に生きる
- 12月14日 三位一体と降誕祭の神秘



\* 個人またはグループでの黙想会や研修会も、  
予約をとっていただければ、歓迎いたします。

865-0133 熊本県玉名郡菊水町蜻浦 1391-7  
☎ 0968-85-3100; fax 0968-85-3186  
e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

## マリアの御心会

### 黙想会プログラム

#### 「来て、見なさい」

- 4月23日(日) 「キリストのいのち」 了  
5月28日(日) 「神の望みを心に留めたマリア」了  
6月25日(日) 「私たちのために裂かれたイエスの体」了  
7月23日(日) 「人々の中におられるイエス」了  
9月24日(日) 「神の愛に生きる」了  
10月22日(日) 「キリストが私の喜び」了  
11月26日(日) 「王であるキリストの呼びかけ」  
12月17日(日) 「イエスは世の光」

'07/

- 1月28日(日) 「イエスのいやし」  
2月24日(土)～25日(日) 「イエスの湯き」上石神井黙想の家  
3月25日(日) 「赦すイエス」

結婚・修道生活・独身生活を選定したい方

自分の道を見つけたい、祈り考えたい方のために開かれています。

対 象；20代30代の独身女性

講 師、時間などが月によって違いますのでお問い合わせください。

場 所；〒160-0012 東京都新宿区南元町 6-2

JR 信濃町下車徒歩2分

問い合わせ・申し込み TEL 03-3351-0297 FAX 03-3353-8089

E-mail [midorif@jca.apc.org](mailto:midorif@jca.apc.org) <http://www.meisen.org.org/maria>

すべての人のための祈りの集い

## いのちの泉へ

— キリスト者としての成長をめざして —

2006年 11月18日(土)

— 三位一体のエリザベット帰天100周年の終わりに —

次回の予定 12月16日(土)

講話 伊従信子・片山はるひ (ノートルダム・ド・ヴィ会員)

参加費 200円 午後2時より 講話・祈り・分かち合い  
午後5時半 ミサ(参加自由です)



お申し込み・問い合わせ  
ノートルダム・ド・ヴィ  
〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35  
TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254  
e-mail [ndv-jp@r2.dion.ne.jp](mailto:ndv-jp@r2.dion.ne.jp)

カルメル会の霊性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、  
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、  
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

# 近刊紹介

## \* 「神はわたしのうちに、わたしは神のうちに」

三位一体のエリザベットとともに生きる

(三位一体のエリザベット帰天100周年記念出版)

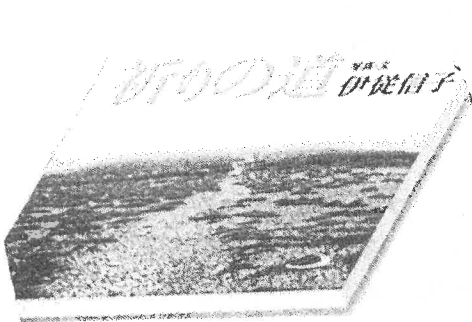
伊従信子著・聖母文庫：聖母の騎士社・¥525（196頁）



## \* 「祈りの道」「いのちの道」

写真と文 伊従信子・サンパウロ・¥840（48頁）

日々の生活に潤いをもたらす、珠玉の言葉と写真を集めた2冊。



帰天100周年記念に贈る、  
福者三位一体のエリザベトの生涯！

## 三位一体のエリザベト

神は私のうちに 私は神のうちに

Sr. 菊地多嘉子が、沈黙の生活の中からわきあがるエリザベトの靈性の美しさを記す。

「神秘中の神秘である三位一体に引き込まれていく」一修道女の生涯。

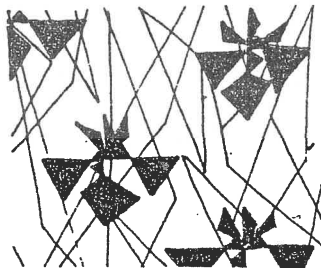
菊地多嘉子 著

ドン・ボスコ社

菊地多嘉子著 64頁 新書判 定価（本体500円＋税）

ドン・ボスコ社

10冊以上20%割引！



## 投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で2枚前後に簡単にまとめて送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

- \* 寄稿連絡は、九里<sup>くのり</sup> 彰神父宛にお願いいたします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル会修道院

Tel (03) 3704-2171 Fax (03) 3704-1764

## 投稿規程

- \* 締め切り：原則的に毎月10日まで
- \* 原稿サイズ：B5 左右の余白：20mm
- \* 原稿はできる限りワープロかパソコンでおねがいします。  
**手書きの場合**は、パソコンで打ち直しのため掲載が遅れる場合も出てきます。
- \* E-mailでの投稿は、添付ファイルで、seminary@carmel-monastery.jp宛てにお願いします。
- \* 「心の泉」のコーナーについては、小題をつけて。
- \* 「諸所の企画」のコーナーについては、
  - ①主催するグループ名もしくは個人名を明記。
  - ②活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
  - ③月間、あるいは年間の具体的計画。連絡先等。

「霊性センターニュース」をご希望の方は、

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。

佐々木茂子 〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾 4-21-11

Tel (045) 575-5722

## 献金へのお願い

「霊性センターニュース」は現在、ご希望の方へ無料で配付しております。コピー代、紙代、印刷代等、諸経費はすべてカルメル修道会が負担しております。読者のみなさまのご理解、ご協力をお願いいたします。

献金される方は、下記の口座へお振込みください。

郵便番号口座：00110-4-297250

加入者名：カルメル霊性センターニュース

通信欄に「霊性センターニュースへの献金」とご記入ください。

振込用紙が必要な方は、ご請求下さい。お送りいたします。



## 編集後記

暑い夏も去り、「天高く、馬肥ゆる」秋となってきた。といっても馬などは、東京では競馬場にでも行かなければお目にかかれないから、肥えているのか肥えていないのか、一般人にはよく分からない。飽食日本…。さしづめ、「天高く、人肥ゆる」秋というところかもしれない。

ところで、先日久しぶりに大阪駅に降りたが、エスカレーターの使い方が関東と逆なのに気がついた。関東では急いでいない人は左側に寄り、右側を急いでいる人のために空ける。これに対して、関西では左側を空けるのである。同じ日本で、同じ？エスカレーターを使っていて、東と西で逆なのである。どうしてこうなったのか、いつからそうなっているのか、私にはよく分からないが、関東と関西で正反対というのは面白い。

言うまでもなく、関東と関西では言葉を始め、食文化などいろいろ異なっている。が、何よりも違うのはメンタリティーではないだろうか。同じ日本人なのに、関西人は開けっぴろげで、あまり物怖じしない。これに対し、関東人はどちらかというところ無口で、シャイである。因みに、シャイ (shy) などと英語で言うと、何かよいように響くが、欧米ではまったくマイナスイメージである。スペイン語だと”tímido”。これには「おどおどした」「臆病な」といった意味があり、同情されこそすれ、尊敬はされない。いずれにせよ、東京は武士の町、大阪は商人の町であったからか、メンタリティーは異なっている。そしてこれが国際間ともなれば、メンタリティーどころか、さまざまな相違があり、そこから差別が生まれ、対立紛争が惹き起こされる。一致は絶望的にも思われてくる。けれども、すべての人がすべての相違を超えて一致できる場が神によって用意されている。

あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。そこではもはや、ユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです (ガラ 3: 26~28)。

(P.九里)

